

朝日ヶ丘公民館だより ・8・9月号

TEL 043(272)4961 FAX 043(271)6994 ✉ asahigaoka@ccllf.jp

「つどい まなび つなぐ ～地域の皆様に愛される 地域主体の公民館をめざして～」

「みっともない」という思いの共有

館長 長谷部 芳彦

大女優として名を馳せた沢村貞子さんは非常に成績がよかったそうです。小学校2年の時、全甲（今で言えばオール◎・評定オール3、一昔前のオール5）の通信簿をもらい得意になって家に帰りました。台所で煮物をしていた母親に「全甲」のことを言ったが振り向いてもくれません。そこでつい、「できない子だって大勢いるのよ。△△ちゃんなんか、この間も算術ができなくて・・・」とやってしまいました。その途端に振り向いた母親は、「つまらないことお言いでない。人間、学校の勉強さえできればいいってわけじゃないだろ。△△ちゃんは算術は下手かも知れないけど、小さい弟たちの面倒をよくみるし、ご飯の支度だってお前よりずっと上手だよ。人それぞれ、みんな、どこかいいところがあるんだからね。先生にちょっと褒められたぐらいで、特別だなんて、いい気になるんじゃないよ、みっともない」と叱ったというのです。その通りかもしれないと、恥ずかしくなった沢村さんはにぎりしめていた通信簿をそっと背中に隠したそうです。

この話を読んだとき、私はこの「みっともない」という言葉が大変心に残りました。大抵、「ちょっと褒められたぐらいで、特別だなんて、いい気になるんじゃないよ」で叱り言葉は終わると思ったからです。この「みっともない」という感覚をもっているかどうかで、人の振る舞いや物の見方、考え方が大きく違ってくると感じます。

もし、沢村さんに「みっともない」という感覚がなかったら、母親が何をみっともないと言っているのか、意味がわからなかったはずです。みっともないという思いが親子で共有されたからこそ、沢村さんにはにぎりしめていた通信簿をそっと背中に隠したのでしょう。

東京オリンピックの開会式での光景です。確かに橋本さん、バツハさんのスピーチは長かったかもしれませんが、しかし、日本人選手はホスト国であるはずですが。スピーチの間、飛び跳ねて映像に映り込もうとする。自分自身をスマホで撮影する姿が映し出されました。真剣にスピーチを聴く姿こそ、ホスト国選手の姿ではないでしょうか。日本の民度を示そうとする意識は全く感じられませんでした。「これが日本を代表する者の姿か、みっともない。感謝するとは口だけなのか。」と、情けなさや怒り、恥ずかしさがこみ上げてきました。

「みっともないことはしたくない。」という感覚はいつも持っていたいと思っています。公民館の外回りの清掃をしていると、「ご苦労様です」「本当にきれいになって気持ちいいわ」など声をかけてくださる地域の方々がおられます。その逆の事もあります。タバコの吸い殻が捨てられていることは、日常です。ウイスキーの瓶が捨てられていた時には、さすがに驚きました。タバコの後始末ができない。ゴミを公民館内の敷地に捨てる。こういったことを「みっともない」と思えない大人がいることは寂しい限りです。生涯学習が叫ばれる中、「みっともなさ」も学んでいきたいものです。